



土器づくり教室 開催しました！



水子貝塚資料館では毎年土器づくり教室を開催しております。座学に始まり、粘土づくり、実際に富士見市内より出土している土器をモデルに同じサイズの土器を作っていきます。1週間ほど乾燥をさせた後に、「みがき」という工程を経て、最終的には園内で野焼きを行い完成です。全4回の日程で行われています。

第1回の午前中は、当館館長より縄文土器に関する講座があります。また、簡単な縄文原体づくりなども体験していただき、縄文土器の基本的な構造を理解していただきます。午後には粘土づくりを行います。粘土に砂と水を混ぜて粘土を捏ねていきます。既成の粘土とは違い、粉状の粘土か

ら土器づくりに適した粘土に仕上げていきます。

第2回では、実際に富士見市内で出土した土器をモデルに、定規などで土器のサイズを測りながら形を作っていきます。第2回が土器づくり教室の一番の山場で、朝から夕方にかけて一日中土器と向き合います。

第3回は、土器の内側を磨いていきます。この工程により水漏れのしない、ナベとして利用できる土器に仕上げていきます。

第4回は、園内で野焼きをして土器づくり教室は終了です。野焼きのときには、縄文鍋の試食をしていただき縄文を感じることでできるイベントとなっております。

縄文の森から

冬枯れの縄文の森では動植物たちの多くは休眠期に入っていて活動は鈍く、静かな時が流れます。

そんな中、彩りを添えてくれるのが、ツバキやサザンカの花と、そこにやってくるメジロです。

花粉の受粉に動物や昆虫を利用する植物は多くありますが、ほぼ鳥を専門に利用する植物は日本ではとても少なく、ツバキの他によく知られるのは沖縄県で見られるデイゴくらいでしょう。

サザンカやウメもメジロが受粉させることがありますが、サザンカの咲き始める晩秋はまだ昆虫も活動しているので、昆虫にも受粉を手伝ってもらっています。春に咲くウメはハチやアブなどの昆虫の方が主な花粉媒介者です。

鳥に受粉を手伝ってもらうためには、それなりの見返りが必要です。ミツバチなどの昆虫よりも体

の大きい鳥に来てもらうために、ツバキやサザンカは多くの蜜を出します。特にヤブツバキの盛期には花糸（おしべの根元部分）の付け根を指先で絞ると蜜がにじむのがわかるほどです。

おしべと言えば、水子貝塚公園のサザンカの花を一つずつ見てゆくと、ごくまれにおしべの中に小さな花びらが混ざっているものがあります。これは旗弁（きべん）と呼ばれるもので、サザンカの進化の過程で、花弁（花びら）はおしべの変化したものであるということを示すものです。公園のヤブツバキは一重咲きの原種で、まだ旗弁を確認したことはありません。サザンカも原種は一重咲きですが八重咲きに品種改良されることによって、おしべが花弁に変化しやすい性質をもったために、このような現象が見られたものと思われます。

公園のサザンカは、いくつかの品種が植栽されていますが、八重咲きが多く、花期も長いので、よく探せば旗弁付きの花を見つけられるかもしれません。



メジロ



一重咲きのヤブツバキ



旗弁を持つサザンカ



ほとんどおしべのない千重咲きサザンカ



まつのき 松ノ木遺跡出土の赤い浅鉢形土器

みずほ台駅西口前に位置するまつのき松ノ木遺跡で出土した、縄文時代中期後葉の縄文土器です。縄文時代に一般的な深鉢に比べて、高さに対する口径が大きく、「浅鉢形土器」に分類されるものです。単に「浅鉢」と呼ばれることもあります。

内面・外面ともに赤みがかった色調です。普段展示している正立の状態では分かりづらいですが、土器を真上や真下から見てみると、内面では全体的に赤みが均一で、外面では赤みが強い部分

と弱い部分、黒い部分がまだらになっていることが見てとれます。

この赤みや黒いまだらは、表面に顔料が塗られているわけではなく、胎土に含まれる鉄分の量や、焼きあげる際の火の当たり加減などによって発色した色のようです。

松ノ木遺跡からは、この資料とおよそ同時期の浅鉢形土器が他にも出土しており、それらの中には同様に赤い焼き上がりのものがあります。一方で、表面に赤や黒の顔料が付着しているものも見つかっています。

このような浅鉢形土器たちを見ていると、当時の人々は胎土の選択や焼き方によって土器の発色をある程度コントロールする方法を知っており、そういった技術と顔料による彩色とを併せて浅鉢形土器を彩っていたのではないかと感じます。



松ノ木遺跡出土の浅鉢形土器



土器の内面
(上からの写真)



土器の外面
(下からの写真)



イベント レポート



今年度水子貝塚資料館では、「縄文の森観察会」を春と秋の2回開催しました。水子貝塚公園内を樹木担当の職員に解説をしてもらいながら、散策をするというイベントでした。

普段園内を回ってはいるものの、そこまで詳しく植物を観察はしていないので、公園内の植物に関する話はどれも目新しく、おもしろいものばかりでした。

気になっている植物がある方は、次の機会に質問してみてください。

2～4月のイベント予定

* イベント予定は変更することがあります
最新の情報は広報富士見か公式サイトで

企画展「縄文土器を視る

— 作った痕・使った痕 —

日時 3月14日（土）～6月14日（日）

場所 資料館内展示室

内容 縄文土器をよく観察すると、当時の人々が粘土から土器を作り上げた過程や、道具として使っていた痕跡が見つかることがあります。

市内出土の縄文土器などを例に、土器に残された製作や使用の痕跡について紹介・解説します。

縄文土器を視る ハンズ・オン・デイ

日時 3月15日（日）、22日（日）、29日（日）

場所 資料館内展示室

内容 縄文時代の遺物に触れることができる小展示を行います。予約等は不要ですので、是非お越しください。

※12時～13時は

お休みしています。

※混雑時はお待ちいただく

可能性があります。

ご了承ください。



ふじみ考古学教室

「縄文土器の用途・技術・年代を科学する」

日時 3月21日（土）

13時30分～15時

場所 資料館内体験学習室

講師 小林謙一氏（中央大学文学部教授）

受付 3月1日（日）9時から電話・窓口にて

定員 30名

春休み(3/24～4/7)期間中は

平日も！

体験！いつでもセブン

開催中！ぜひご参加ください！

※詳しい開催カレンダーはHPをご覧ください

土曜おもしろミュージアム

会場 水子貝塚資料館内 体験学習室他

時間 午前10時～、午後1時30分～

受付は各30分前より

各1時間～2時間程度

定員 各回15人（当日先着順）

対象 小学生以上

（未就学児は保護者同伴で可）

日程	内容（参加費）
2月7日	貝のアクセサリー（100円）
2月21日	古代の組ひもでミサンガ（100円）
4月18日	網代編みのコースター（100円）



発行日 令和8（2026）年1月24日

編集・発行 富士見市立水子貝塚資料館

国指定史跡 水子貝塚公園内 〒354-0011 埼玉県富士見市大字水子 2003-1

水子貝塚資料館

検索

資料館 HP

二次元コード



☎ 049-251-9686

FAX 049-255-5596

